

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600048		
法人名	有限会社あすとぴあ		
事業所名	グループホーム望喜家		
所在地	大分県臼杵市大字江無田1100番地		
自己評価作成日	令和5年4月18日	評価結果市町村受理日	令和5年7月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://fukusuke1135.wixsite.com/nonkiya
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年5月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「利用者様本位」が当たり前にできる施設を目指している。食事、起床、就寝時間の固定にこだわらず、利用者様一人一人のペースに合わせて支援を行う。コロナで中々出来なかった外出、外食にも力を入れていき、利用者様や、ご家族様が、望喜家で過ごせて良かったと心から喜んでもらえるケアを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・全職員で利用者に喜んでもらえるような支援に努めている。
- ・食事は3食施設内で手作りされており家庭的な雰囲気である。
- ・少しづつ外出や直接面会の機会が増えてきており、利用者や家族に喜ばれている。
- ・施設は2ユニットあり相互に交流がなされ和やかに過ごすことが出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を復唱し、確認している。会議の際にも、理念をもとに話し合っている。	事務所の壁に理念を掲げて朝礼時唱和して再確認している。ここで生活してよかったと思われるように日々心掛けて支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが緩和され、地域への外出の機会が増えてきているが、地域の方を含めたイベントはまだ行っていない。	食材を地域の業者から納入している。入居前からの馴染みの美容室が来所して利用者の皆さんと交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学に来られた地域の方に、事業所で行っている、支援方法の説明をして、理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面開催にてサービス状況や、現状報告をし、意見を求め、サービス向上に努めている。	書面開催であり、施設の状況を報告し意見をもらっている。コロナで外出が出来ないので利用者の状態が心配だとの意見があり、ドライブに行くなどでストレス発散に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の方にも運営状況や、サービス提供を書面にて送り、意見を求めて、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	コロナ感染症の対応について市に相談してアドバイスをもらっている。保健所からの指導にも従っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議にて、虐待身体拘束について話し合う時間を設け、身体拘束をしないように意識している。	ベッド柵使用やスピーチロックなどについて事例を挙げながら職員会議で話し合っている。早朝など職員が少ない時間帯には玄関を施錠している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議の中で、何が虐待に当たるのか話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している利用者様もいるので、管理者は、担当者で話し合いが出来るが、一般職員は中々出来ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様にアンケートを取り、疑問点などがあれば時間を設け、説明するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートだけでなく、日頃からご家族様との連絡を密にとり、意見を頂けるようにしている。	面会時に家族より意見を聞いている。病院受診で利用者の様子を伝えているが、その時に何か要望などないか聞いている。遠方の家族には電話で意見などを聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	様々な委員会を設け、職員会議にて一般職員の意見を聞き、全員で話し合って決定するようにしている。	職員会議などで意見や要望を聞いている。ドライブに行かない人のレクリエーションをもっと考えてほしいという要望が出て、検討中である。毎日の残業時間を減らしてほしいという意見に対し1時間半とし以前より1時間短縮した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者もよく現場に来て、状況を把握し、向上心を持ったり、やりがいが生まれるよう、資格取得の為の対案をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に行われる研修への参加を促し、2カ月に1度、動画での研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの関係で、同業者との交流はほとんどないが、今後コロナ対策が緩和されたら、交流の機会を増やしたいと考えている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の状況を把握し、ご意見ご要望があれば、出来る限り最善を尽くし、意見を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族様が困っている事や、不安なことを伺い、日々の連絡をまめにとり、不安を歌唱できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様が必要なサービスを見極め、場合によっては、他の事業所のケアを参考にして柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来ることは、職員だけで行わず、出来ることは一緒に家事を行い、感謝の気持ちを伝えるを意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日頃の状態をこまめに連絡し、報告している。ご家族様と話し合いの後、利用者様のケアの方向性を決めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室などの利用は、できる限り継続して行い、ドライブなどを通じて、馴染みの場所へご案内している。	これまで利用していた美容室をそのまま継続して、行きつけとなっている。訪問理美容も利用していて新しい馴染みとなっている。馴染みの場所にドライブに出かける事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人の意見を大切にし、時には居室でお一人で食事をしたい方には無理せず、お一人の時間をとれるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了した利用者様でも、経過状況の把握で、連絡を取ったり、相談に乗ったりできるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様本位で考え、その人らしい生活が出来るように、想いや、意見を聞くように努めている。	普段何気ない会話の中から利用者の思いを感じ取っている。不満など聞けば会議で検討し、家族にも相談することがある。言葉に表せない人には態度や様子を見て感じ取っている。現場での気づきはメモをとり、みんなで話し合い情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメント等において、これまでの生活が維持できるように努め、各居室へ、自宅から馴染みの物を持ってきていただき、使用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の身体状況を把握し、一人一人の過ごし方を考え、無理せず、楽しく過ごせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度ケア会議を開催し、より良いケアについて話し合いを行い、介護計画につてケアマネを中心に話し合いが出来ている。	毎月1回ケア会議を開催し、全員が参加して利用者の状態や問題点を話し合い、ケアマネが計画を立てる。6か月ごとの見直しや状態変化の時にプラン変更をする。家族にはその都度連絡し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録、なるべく細かく記載するように努めており、ケア会議でも、記録や職員の気づき、工夫を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様本位を意識して、その都度生まれる要望に、ご家族様や、主治医を踏まえて話し合い、柔軟に対応できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにあるお店へ利用者様と職員とで歩いて買い物に行き、楽しんで生活が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様が希望するかかりつけ医への通院を入所後も継続している。通院には、基本的に、ケアマネ、現場主任が同行し、医師に現状を伝えている。	入居前のかかりつけ医をそのまま利用することが出来る。希望すれば変更することが出来る。市内の受診は職員が同行しており、受診後は家族に状況を報告している。往診や訪問歯科も利用できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約しており、利用者様の健康管理や、医療面での相談や助言を受け、利用者様が適切な処置や、受診が受けれるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入退院される際には医療機関と、情報の共有を図り、安心して治療できるように心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した時の対応についてご家族様と話し合い、終末期になると、その都度ご家族様や、地域の関係者(後継人)等と連携をとれるように図っている。	入居時や重度化した場合に施設としての指針を説明しており、家族の希望を確認している。往診や訪問看護を利用しながら看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、緊急時の対応についてマニュアルを作成し、対応できるようにしている。又、訪問看護との連携も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回利用者様と共に、避難訓練を行っている。消防署の協力の元、初期消火訓練も行っている。	年2回火災を想定して利用者とテラスへ避難する訓練を行っている。消火器を使っての訓練も行っている。備蓄は現在賞味期限が来て破棄し、入れ替えを検討している。市の福祉避難所に指定されており、組み立てベッドを備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や職員同士の意思交換を行い言葉遣い等に注意するよう意識共有している。	言葉使いには気を付けている。幼児言葉を使ったり子ども扱いにするなど見られたらその都度注意している。耳元で声かけてトイレへ誘導している。利用者一人ひとりの個性を尊重した支援に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に声をかける際には、利用者様自身が考えて自己決定できるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や起床時間等は、体調やその時の気分に合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師に定期的に来設していただき、希望があれば以前からの行きつけの美容室にお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は職員も一緒に食卓につき様子観察をしながら、談笑するようにしている。	3食とも職員による手作りである。調理の音や匂いで家庭的な雰囲気が作られている。フキの筋を取ったり下膳の手伝いなど利用者の出来る事を一緒に行っている。誕生会や母の日など色々な行事に合わせて特別食が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1食3品以上を目安にしており、季節に応じたメニューにしている。また水分量も職員間で情報共有をして水分提供するようにしている。		

事業者名:グループホーム望喜家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でもできる方は見守りを行い、介助の必要な方は、1人1人に合わせたケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い排泄の頻度を情報共有して、声掛けやご案内している。	排泄チェック表に基づいて声掛けをしている。夜間は時間を見てトイレに誘導しているが、睡眠を妨げる事はしていない。昼夜はパットの大きさを変えている。退院時はオムツ使用であったのが支援によりリハビリパンツになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最低でも2日に1回は乳酸菌飲料の提供を行い、ラジオ体操や施設内の散歩等体を動かすことを促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後と入浴の時間を設けており、週に3回以上の入浴を目標に実施している。	週1,2回の入浴であるが希望すればいつでも入れる。機械浴と普通浴がある。入浴を拒否する場合は無理強いせず、声の掛け方を変えたり担当職員を変えるなどしている。浴室のドアにのれんを掛けて雰囲気づくりをすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自宅より愛用しているものを持参していただき、安心して休まれる環境作りをしている。就寝時間も決めておらず、ご本に様の希望にて休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申送り、引継ぎノート等を活用し、服薬の最新情報を把握している。薬を床に落とさないよう、最後まで見守るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節や行事のイベントを施設内外で行い、家事なども、利用者様と共に行い、生活に活気が出るように努めている。		

事業者名:グループホーム望喜家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や海沿いへのドライブへご案内し、少しでも利用者様の意向をお聞きし、対応している。	近所をよく散歩している。ケーキを買いに利用者と一緒に買い物に出かける。少人数でドライブに出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と話し合い、本人様より、購入したいものがあつた場合、預り金よりお渡しし、いつでも使用できる対応を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙などご自身で書いていただいたり、携帯電話を所持されている方もおり、本人の希望があれば、当施設の電話を使用することも可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに季節ごとの飾りつけや、写真などを壁に張ったり、アルバムを作成し、鑑賞していただいている。利用者様の希望があれば、食事の席も、随時変更可能である。	水槽に金魚が泳いでおり、ソファに座ってなごむことが出来る。壁には利用者の写真や塗り絵が飾られている。空気清浄機が設置され、コロナ感染対策が取られている。敷地内につつじが満開で部屋やホール、テラスから眺めることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	隣に寄り添い、談笑されたり、懐かしい歌をカラオケで歌ったりして、気軽に話せたり、過ごして頂けるスペース作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の長年愛用している物等を持参していただき、気持ちが落ち着くよう、ご家族様の写真を飾り、心地いい環境づくりをしている。	家族の写真や馴染みの物を飾り居心地よく過ごせるよう工夫がされている。転倒の危険がある利用者の部屋にはマットを敷くなどして個々に合った部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の可能性のある方は、居室にクッションマットを敷いたり、居室ドアには名前を貼り、ご自分でもわかるように、工夫している。		